

## ■ フジノウェーブ記念 (SIII) アラカルト (過去全 13 回の分析)

※第1回（平成22年）から第4回（平成25年）までは「東京スプリング盃」の名称で実施  
※記録は令和5年2月23日時点

### ■ 上位人気馬の好走率は5割前後

単勝1番人気馬は5勝、2着1回、3着1回で、3着内率が53.8%、単勝2番人気馬は0勝、2着3回、3着3回で、3着内率が46.2%、単勝3番人気馬は4勝、2着2回、3着1回で、3着内率が53.8%となっている。現在のところ、単勝1~3番人気馬の3着内率にはそれほど大きな差がない。

### ■ 3番人気以内の馬が1~2着を占めた例は4回

過去13回のうち9回は、単勝3番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝3番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は4回あるが、単勝3番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着はまだない。

### ■ 7歳以上の馬が優勝馬の大半を占めている

馬齢別の勝利数を見ると、4歳が2勝、5歳が1勝、6歳が1勝、7歳が4勝、8歳が2勝、9歳が1勝、10歳が1勝、11歳が1勝となっている。幅広い年齢層から万遍なく優勝馬が出ているうえ、どちらかと言えば7歳以上の高齢馬が優勢だ。

### ■ フジノウェーブは「東京スプリング盃」を第1回から4連覇

フジノウェーブ記念において複数回の優勝経験があるのは、「東京スプリング盃」の名称で施行された第1回（平成22年）、第2回（平成23年）、第3回（平成24年）、第4回（平成25年）を制したフジノウェーブ、第10回（平成31年）と第12回（令和3年）を制したキャプテンキングの2頭となっている。

## ■ 牝馬、外国産馬とも未勝利

牝馬の優勝例はまだなく、第7回（平成28年）のブルーチッパーによる5着が過去最高着順となっている。また、外国産馬は第6回（平成27年）でサトノデートナが、第12回（令和3年）でベストマッチョが2着となっているものの、こちらもまだ優勝例はない。

## ■ 騎手別の歴代最多勝記録は「2」

騎手別の勝利数を見ると、御神本訓史騎手が3勝で単独トップ。坂井英光騎手が2勝で単独2位となっている。

## ■ 調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、高橋三郎調教師が4勝で単独トップ。的場直之調教師が2勝で単独2位となっている。

## ■ 7枠に入った馬の優勝例が多い

枠番別勝利数を見ると、7枠（4勝）が単独トップ。2枠と3枠（各2勝）が2位タイとなっている。ちなみに、未勝利の枠番はない。また、馬番別勝利数を見ると、13番（3勝）が単独トップ。3番（2勝）が単独2位となっている。なお、未勝利の馬番は2番、4番、7番、9番、12番、16番だ。